

						や保護者の実態に応じた支援が図られた。 ○ 町教育支援センター「なでしこルーム」に 8 名（2 年男児 1 名、3 年男児 1 名、4 年男児 2 名、5 年女児 1 名、6 年男児 2 名・女児 1 名）、「まちなかコラボ」には 5 名（3 年男児 1 名、6 年男児 4 名）の児童が通級している。	特別支援教育 ・個に応じた支援の在り方に関わる研修	環境が素晴らしいと思います。 ・不登校児童の問題は、大きすぎて心が痛みます。各自のスピードがあるのでしょいか。	
徳育	心の教育推進「ふれあい」 明倫四徳の意識化と実践	○ いじめ不登校の未然防止と早期解決 ○ 自己決定の場を与える ○ 自己存在感を与える ○ 共感的な人間関係を育成する	・児童の自己実現への支援～生徒指導の 3 機能発揮と悩みアンケートや教育活動を毎月実施 ・学級活動、全校、学年集会活動、学校行事などで礼法指導や存在感・達成感を抱かせる場の設定と関わり ・朝のさわやかなあいさつとボランティア活動など奉仕・体験活動の推進で思いやりの心と人のために働く態度を養う。 ・新明倫の教えを毎週一度は唱和させる。	A B B B	B	○ 困ったときの相談やサポートについては、児童 74 %、保護者 80 % が肯定的に評価している。 ○ 生徒指導の 3 機能を生かした教育活動を目指している。また、悩みアンケート「あのねカード」や教育相談により、いじめ不登校の未然防止等に務めた。 ○ いじめ不登校の問題が発生し、組織的な対応が必要と判断された場合はハートフル委員会を開催することができた。 ○ 児童の自主性を育てる行事や日常指導についての肯定的な評価は児童 72 %、保護者 84 % であった。 ○ 思いやりの心と人のために働く態度を養うことについては、個人差があり、更なる指導や、奉仕・体験活動の推進が必要である。 ○ 2/25、地域見守りボランティアの皆様への感謝集会を行った。更に、挨拶やボランティアへの関心を高めたい。	基本的な生活習慣・行動様式の定着 （あいさつと会釈「あゆみ」歩行、無言の場「ほそいあさち」の徹底） ・「よい子のきまり」の活用 共感的人間関係の育成 ・安心して自分を表現できる 学級集団づくり ・特別活動の充実 ・奉仕活動の推進 ・PTA や地域ボランティアとの連携	・町内の 4 校は、伝統的に年に一度道德の授業に石井十次を取り上げてきましたが、継続を期待しています。 ・地域ボランティアとの交流が、盛んで自分達で考え行動するようになってきている。 ・地震発生後に、東小児童姉弟 2 名が近くの事業所に避難してきました。少し感動しました。	B
体育	健康づくり推進「高め合い」	○ 基礎体力の向上 ○ 生命の尊重と健康教育の推進 ○ 心と体を豊かにする食育の推進	・新体力テストの結果の活用と実践、立腰指導、体育の時間における体力向上の指導の充実 ・危険予知トレーニング実践で事故の未然防止に努める。 ・家庭と連携したアウトメディアの推進 ・お弁当の日の継続、朝食の重要性指導	A B B A	B	○ 体力向上については、児童の肯定的評価は 88 %、保護者 83 %、教職員 89 % であった。 ○ 全校集会や昼休み時間での体育委員会による「ひなたのチカラ」に振り付けたダンスの紹介や練習を行った。 ○ 今年度体育派遣事業では、各学年、水泳、タグラグビー、マット運動、等の学習で活用することができた。 ○ 11/6 に「子どもの望ましい生活習慣と睡眠」をテーマに町小・中合同学校保健委員会を行った。 ○ 事故の未然防止のために、委員会活動での安全点検に取り組んだ。 ○ 健康づくりの啓発として、保健だよりや食育だよりを毎月欠かさず発行している。 ○ ノーメディア日を年 2 回実施し、啓発資料を配付してアウトメディアの推進を図った。 ○ 食に関する意識や指導について、児童は 83 %、保護者は 77 %、教職員は 83 % が肯定的な評価をしている。 ○ お弁当の日の取組は定着している。	自ら体力向上を意識する児童の育成 ・自分の体に関心をもち、自らの体力を意識し、お互いに高め合う運動への取組（体育派遣事業） ・体力向上プランに基づく体力向上 ・外遊びの奨励 ・体育の時間での主運動の時間の確保 ・危険予知の研修等の実施 ・学校保健委員会等を通じたアウトメディアの更なる推進	・木の床の傷みが気になりました。 ・運動することにより、健康と長生きの秘訣になり今以上に体力向上の指導をお願いしたい。 ・体育や外遊びの運動は皆大好きです。好きなところから伸ばせると、他にも良い影響もあると思う。 ・集団登校に参加する児童が、少ない地区がある車での登校が目立つ。 ・アウトメディアの推進は、さらに必要と感じています。	B

【次年度の方向性についての校長所見】

高鍋町の教育基本方針に基づき、「心豊かな人が育つまちづくり」を教育理念とし、「明倫」の精神と石井十次先生の人間愛を学び、地域の特色を生かした教育活動を展開し、ふるさと高鍋ならではの人材育成に努める。

学力向上推進（学び合い）では、「ひなたの学び」を意識した授業改善によって、子ども達の学びに向かう力を育てていくことを重点課題とし、読書指導や家庭学習を充実させながら、児童一人一人の学力の向上に努める。

心の教育推進（ふれあい）では、基本的な生活習慣（あいさつ等）を定着させるとともに、「四徳のこころみがき」を基盤とした生活指導をさらに充実させ、いじめ・不登校の未然防止や児童の思いやりのある心の育成に努める。

健康づくり推進（高め合い）では、体育科の授業や日常生活（生活リズムや外遊び等）を通して、健康な体への関心を高めるとともに、児童同士が互いに高め合う運動に取り組み、一人一人の体力の向上と健康の保持増進に努める。

児童や教職員のウェルビーイングを目指し、チーム担任制や教科担任制への取組を試行的に実施し、工夫・改善を図りながら、一人一人がやりがいをもって組織的に取り組める教育環境を整えることで、教育目標の具現化に迫る。